

「東京新聞にダメ出し会議  
まとめ編」(17日32面)で  
は、九回にわたるダメ出し会  
議で読者から受けた提言や注  
文について、その後の進展状  
況を記者が○、△、×で自己  
評価。他人を批判するのは得  
意だが、自分が批判されるこ  
とには慣れていない新聞記者  
が、読者の声を聞くこととす  
る姿勢に好感が持てた。

なぜ新聞を読むのか。「試  
験に出るから」「社会人とし  
て、社会の動きを知っていな  
いと恥ずかしいから」など、  
一方的な情報収集の手段と考  
えられる傾向が強まっている  
ように感じる。ダメ出し会議  
では「子どもに新聞作らせた  
ら?」「読者がもっと参加で  
きたら」「投書欄充実させる  
のも手」「見出しで内容もっ  
と詳しく」など、読者とも  
に作る新聞が念頭に置かれて  
いる。そのためには「分  
かりやすく」も強く期待  
されていることがうかが  
える。

投稿欄には重要な指摘  
が多い。「『開かずの踏  
切』改善を」(19日5面  
ミラー)は、前の駅に到  
着もしていない電車のた  
めに踏切が閉めっぱなしで、  
二十五分も足止めされたこと  
を伝えた。投稿をもとに記者  
も取材し、事態の改善につな  
げる(こそ、新聞の存在意  
義ではないかと思う)。

先日の雪では駅ホームへの  
入場制限で、改札口から一時  
間以上一人も入場させないこ  
とに、外国人と思われる乗客  
が「一人も入れないのはおか  
しいよ」と駅員に詰め寄る場

## 新聞の存在意義

面に遭遇した。これに対し  
「他の方もお待ちなのでお待  
ちください」との返答。一個  
人の苦情は無力だ。納得のい  
く説明をせず多くの人をひた  
すら待たせることは許される  
のか。こうした些細なことも  
ぜひ追及してほしい。

「退屈なニュース番組」と  
いう高校生の投稿も鋭い指摘  
だった(20日5面ミラー)。  
米国のニュース番組ではアナ  
ウンサーとゲストの熱いディ  
スカッションを楽しめ、自分  
の意見を確立させることもで  
きるという。日本のニュース  
番組は、社説「キャスター降  
板 何が起きているのか」  
(21日)で、「自由闊達であ  
るべき放送ジャーナリズムの  
衰退」が懸念されている状  
況。公平中立ばかりでは、自  
分の意見を確立する手助けに  
はならない。ニュース番組が  
そのような状況であれば  
美香 池本  
なおさら、新聞は記者  
も、読者も、有識者も、  
自由にものを言える場  
あってほしい。



池本 美香

皆が意見を言えるよう  
にするには、情報をわか  
りやすく伝えることが重  
要。英政府発行の書類に  
は、平易な英語を使っている  
旨が記載されていた。専門用  
語の多用などで読む気にな  
くし、意見や批判が出なくな  
ることを避けるねらいだ。自分  
の意見を持ち、自由闊達に議  
論できる人を育てるため、子  
ども向けの分かりやすい新聞  
の刊行も検討いただきたい。  
(日本総合研究所主任研究員)  
※この批評は最終版を基に  
しています。

## 新聞を **読** んで